



報道関係者各位

バイエル薬品株式会社

参天製薬株式会社

糖尿病網膜症の予防に関する糖尿病患者調査より

糖尿病網膜症による失明を減らすためには、 糖尿病患者さんの十分な疾患理解とスムーズな眼科受診を促すサポートが重要

- 糖尿病の診断を受けたにもかかわらず、診断後早期に眼科を受診していない実態
- 深刻さを含む疾患理解につながる情報提供、眼科受診の意義についての情報提供が求められる
- 眼科医と糖尿病治療医の連携をベースとした、スムーズな眼科受診に向けた行動支援も課題

大阪、2015年4月23日 — バイエル薬品株式会社(本社:大阪市)と参天製薬株式会社(本社:大阪市)は、2015年3月、2型糖尿病患者さん1,000名を対象に、糖尿病網膜症の予防に関する実態と意識を把握し、今後の患者支援の参考とすべく、東京女子医科大学 糖尿病センター眼科 教授の北野滋彦先生のご監修のもと調査を実施しました。

糖尿病の3大合併症の一つである糖尿病網膜症は、進行すると失明にもつながる深刻な疾患です。一方で、ものを見るために最も重要な働きをする黄斑部(網膜の中心部)が障害されるまで視力への影響が出にくく、見えにくいなどの自覚症状が出てからの眼科受診では治療が困難な場合もあります。今回の調査結果においても、網膜症診断時に「見えにくいなどの自覚症状は全くなかった」という人が糖尿病網膜症罹患患者(n=56)の37.5%に及びました。網膜症の発症と重症化を予防し、糖尿病患者さんにおける失明リスクを軽減するためには、血糖コントロールなどの糖尿病治療の継続はもちろん、糖尿病診断後の早期眼科受診とその後の適切な頻度での眼科定期受診が非常に重要です。そこで、今回の調査では、糖尿病患者さん自身が網膜症の発症や重症化の予防に積極的に取り組むために、眼科医や糖尿病治療医からのどのような働きかけが有効であるかを聞きました。

「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2013」(日本糖尿病学会)では、網膜症発症と進展のリスク因子として、①糖尿病の罹患期間が長い、②HbA1c(ヘモグロビン A1c)高値、③高血圧症の合併などが挙げられていますが、今回の調査対象者(n=1,000)においては以下のような状況でした。

- ・糖尿病罹患期間が10年以上の人：45.7%
- ・HbA1c値7%以上の人：44.9%
- ・高血圧症を合併している人：42.0%

◆糖尿病の診断を受けたにもかかわらず、これまでに眼科を受診していない、もしくは1年以上たってから受診した人が合わせて半数以上。さらには、約20%の人は眼科受診を中断。眼科受診の重要性について、啓発不足と患者さんの認識不足がうかがえる

糖尿病診療ガイドラインでは網膜症発症と進展のリスク因子として、初診時に重症な網膜症を認めることも挙げられています。「糖尿病網膜症は初期のみならず、進行した段階においても自覚症状を欠くことが多い」ことから、同ガイドラインにおいても糖尿病診断時の眼科受診が推奨されています。それにもかかわらず、今回の調査結果では、糖尿病の診断を受けてからいまだに網膜症検診のための眼科受診に至っていない、もしくは1年以上たってから受診した人が60.9%を占めています（「受診していない」(23.9%) + 「1～5年以内に受診」(22.6%) + 「5年以上経ってから受診」(14.4%)）。糖尿病の診断を受けたにもかかわらず眼科を「受診していない」としている人は、その理由を、「糖尿病治療医から眼科を受診するように言われなかったから」(48.5%)、「特に理由はない」(24.7%)、「日常生活に支障がでていなかったから」(22.2%)と回答しています。

さらに、同ガイドラインでは「少なくとも年1回の(眼科)定期受診が望ましく、リスクの高い例ではより短い間隔での眼科受診が勧められる」とされていますが、今回の調査結果では1年に1回以上受診している人は53.8%にとどまり、22.3%は受診を中断しています。中断の理由としては、「眼科医や糖尿病治療医から眼科の受診を続けるようにと言われなかったから」(28.7%)、「前回の眼科受診の際、眼科医より『目は大丈夫』と言われたから」(26.9%)、「特に理由はない」(19.7%)が上位に挙がっており、眼科の受診やその継続においては医師の勧めや指示に依存する傾向がうかがえます。また、眼科を受診しないこと、受診を中断していること、いずれにおいても「特に理由はない」とする人が多数見られることについて、北野先生は「網膜症による視力や日常生活への影響の深刻さやその予防の重要性を自分事として十分な危機感を持って捉えきれていないことが背景にあると考えられます。糖尿病を罹患していること自体が網膜症を引き起こす要因であり、すべての糖尿病患者さんに網膜症発症リスクがあります。血糖コントロールや眼科検査の結果が一時的に良好であっても、網膜症の発症や進展には常に観察が必要です」と述べています。

なお、糖尿病と診断されたら、年1回以上の眼科受診が必要であることを知らなかった人は46.9%と半数近くに上り、患者さんがきちんと認識するまでの情報提供に至っていない実態が示唆されました。

◆患者さんの理解を促す早期からの十分な情報提供と、眼科医と糖尿病治療医の連携をベースとした具体的な行動支援の重要性が明らかに

患者さん自身が糖尿病網膜症の発症・重症化の予防に取り組む動機づけとなりうる医師からの働きかけとして、「疾患や治療意義への理解を促す情報提供」と「具体的な行動支援や心理的サポート」に当てはまるそれぞれの項目について、その有効性を聞いたところ、深刻さを含む網膜症理解につながる情報提供や眼科受診の意義についての情報提供が患者さんのモチベーション維持に効果的である可能性がうかがえるとともに、眼科医と糖尿病治療医の連携をベースとした、スムーズな眼科受診に向けた行動支援も求められていることがわかりました。「かなり積極的に取り組もうという気持ちになる」「ある程度なる」と回答した人の割合が多かった項目は以下の通りです。

患者さんの理解を促す早期からの十分な情報提供

下記についてよく理解できるまで眼科医や糖尿病治療医から十分な説明がある

- 2位: 網膜症が進行すると失明する危険性があること(70.5%)
- 3位: 高血糖が続くとなぜいけないかなど、糖尿病から網膜症が起こるしくみ(69.7%)
- 6位: 適切なタイミングで網膜症の治療が受けられるよう、血糖コントロールが良好でも眼科を定期的に受診した方がいいこと(67.9%)
- 8位: 目が見えにくくなることで、仕事が続けられなくなったり、日常生活が不便になること(67.1%)

眼科医と糖尿病治療医の連携をベースとした具体的な行動支援

- 1位: 眼科への定期的な受診を、かかりつけの糖尿病治療医から勧められる(76.8%)
- 4位: 眼科での予約取得や検査・診察がスムーズである(68.8%)
- 5位: 眼科への定期的な受診を、かかりつけの眼科医や受診した眼科医から勧められる(68.2%)
- 7位: かかりつけの糖尿病治療医から、適切な眼科を具体的に紹介してもらえる(67.5%)

◆十分な情報提供・啓発と、さらに踏み込んだ検診体制・診療連携が今後の課題として浮き彫りに併せて、糖尿病網膜症の発症や重症化の予防に取り組むために周囲に求めることを自由回答で聞いたところ、医師からわかりやすい言葉で説明してもらうこと、現状の定量的説明、症状や体験談などがわかる映像、待合室で読める網膜症に関するパンフレットや啓発ポスター、糖尿病や網膜症の深刻さについてのメディア報道を通じた啓発や市民向け講座など、患者さんの求める啓発と情報提供の内容が具体的に挙げられました。加えて、公的な眼科無料検診の実施、健康診断への眼科検査項目の組み込み、内科ででき

る簡易眼科検査、眼科・内科の両科受診の簡便化や両科受診が必須となる仕組み作りなど、検診や診療における一歩踏み込んだ体制づくりや連携の必要性に対する提案が見られました。

◆相談窓口や医師からの配慮、医師以外の医療スタッフによるサポートを求める声も

一方で、「看護師、栄養士、薬剤師、検査技師等、眼科医や糖尿病治療医以外の医療スタッフによる情報提供やサポート」、「眼科医からの心理的サポート」に当てはまる項目についても、肯定評価が過半数に上りました。さらに自由回答からは、薬剤師からのアドバイス、栄養士による栄養指導、生活習慣を相談できるカウンセラーなど医師以外の医療スタッフによるサポートを求める声や、医師からのやさしい言葉がけやねぎらい、通院や治療の苦勞に対する理解、気軽に相談できる体制など、医師の配慮・心理的サポート・相談機会に対する要望が改めて挙げられました。

この調査の結果を受けて、北野先生は次のようにコメントしています。「糖尿病の合併症である網膜症は失明にもつながる深刻な病気です。糖尿病と診断されたらなるべく早期に眼科を受診し、現時点での網膜症の有無やその病状を確認した上で、今後の治療方針を決定する必要があります。見えにくいなどの自覚症状が出てから眼科に来られる患者さんが多くいらっしゃいますが、その場合は治療のタイミングを逸しているケースもあります。糖尿病患者さんの失明予防に対する意識を向上させるためには、調査結果で見られたように、眼科医と糖尿病治療医が連携して広く啓発や情報提供を行うとともに、糖尿病患者さんの眼科受診とその継続に向けた具体的な支援を行っていくことが非常に重要となります」

調査結果から得られた糖尿病患者さんの実態やニーズを踏まえ、糖尿病網膜症の発症および重症化の予防を促す活動の一環として、バイエル薬品と参天製薬は引き続き、糖尿病患者さんの疾患理解につながる啓発活動や、眼科医と糖尿病治療医の連携をサポートする活動に取り組んでまいります。

【調査概要】

調査主体	バイエル薬品株式会社・参天製薬株式会社
調査内容	糖尿病網膜症の予防に関する糖尿病患者さんの実態・意識調査
調査対象	過去に「2型糖尿病」と診断されたことがあり、現在糖尿病治療の為に通院している方
有効回答	20歳～79歳の男女 1,000名
調査時期	2015年3月26日(木)～3月27日(金)
調査方法	インターネット調査
監修者	東京女子医科大学 糖尿病センター眼科 教授 北野滋彦 先生

【結果詳細】 別添資料

こちらからもご確認いただけます ⇒ http://byl.bayer.co.jp/html/press_release/2015/news2015-04-23.pdf

糖尿病の推定患者数

厚生労働省の平成 24 年国民健康・栄養調査結果によれば、「糖尿病が強く疑われる者」は約 950 万人と推計され、平成 9 年の調査開始以降、増加傾向が続いています。「糖尿病の可能性を否定できない者」は約 1,100 万人と推計され、両者を合わせると約 2,050 万人であり、国民病の 1 つとされています。

糖尿病網膜症とは

糖尿病の細小血管合併症の 1 つである糖尿病網膜症は、糖尿病患者の約 20% に発症するとされ、日本における視覚障害の原因疾患の第 2 位となっています。60 歳～74 歳においては第 1 位であり、糖尿病網膜症を原因として失明する人は年間約 3,000 人に上ります。

バイエル薬品株式会社について

バイエル薬品株式会社は本社を大阪に置き、医療用医薬品、コンシューマケア、ラジオロジー&インターベンショナル(画像診断関連製品)、動物用薬品(コンパニオンアニマルおよび畜産用薬品)の4事業からなるヘルスケア企業です。医療用医薬品部門では、循環器領域、腫瘍・血液領域、ウィメンズヘルスケア領域、眼科領域の4領域に注力しています。バイエル薬品は、Science For A Better Life (よりよい暮らしのためのサイエンス)の企業スローガンのもと、技術革新と革新的な製品によって、日本の患者さんの「満たされない願い」に応える先進医薬品企業を目指しています。(バイエル薬品ホームページ:<http://www.bayer.co.jp/byl>)

参天製薬株式会社について

参天製薬は、眼科とリウマチ/骨・関節疾患領域に特化した独自性ある医薬品企業として、人々の目とからだの健康維持・増進に寄与するために事業活動を行っています。目をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、それによって患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として社会への貢献を果たして参ります。(参天製薬ホームページ:<http://www.santen.co.jp/>)

バイエルの将来予想に関する記述 (Forward-Looking Statements)

このニュースリリースには、バイエルグループもしくは各事業グループの経営陣による現在の試算および予測に基づく将来予想に関する記述(Forward-Looking Statements)が含まれています。さまざまな既知・未知のリスク、不確実性、その他の要因により、将来の実績、財務状況、企業の動向または業績と、当文書における予測との間に大きな相違が生じることがあります。これらの要因には、当社の Web サイト上(www.bayer.com)に公開されている報告書に説明されているものが含まれます。当社は、これらの将来予想に関する記述を更新し、将来の出来事または情勢に適合させる責任を負いません。

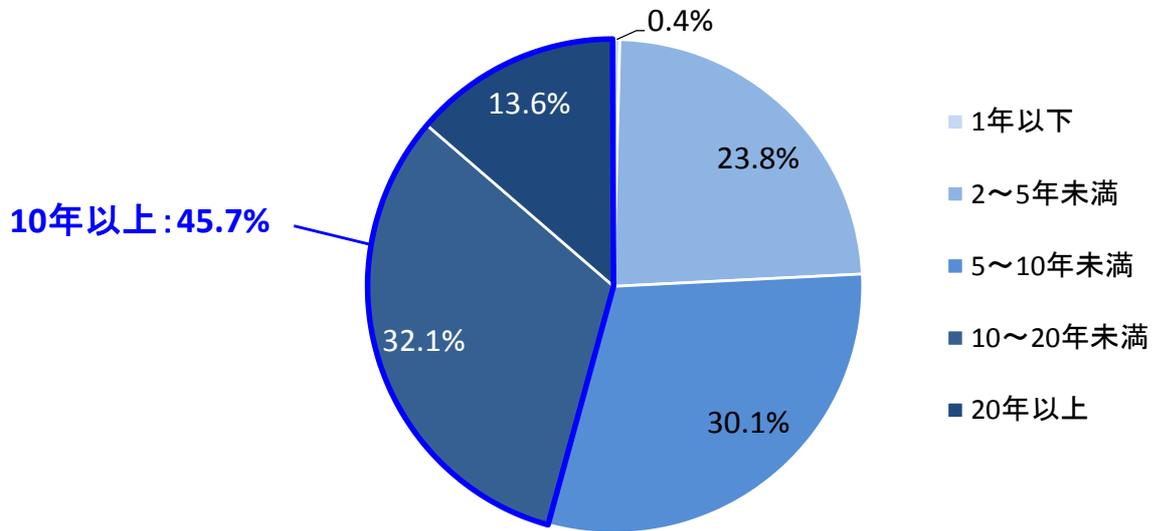
参天製薬の将来見通しに関する注意事項(Forward-Looking Statements)

このプレスリリースにおいて提供される情報は、いわゆる「見通し情報」(“Forward Looking Statements”)が含まれています。これらの見通しの実現できるかどうかはさまざまなリスクや不確実性に左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。また、日本ならびにその他各国政府による医療制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。

◆ 糖尿病の診断を受けてから10年以上になる人が45.7%

Q 初めて糖尿病の診断を受けてから何年くらい経っていますか。(単一回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)

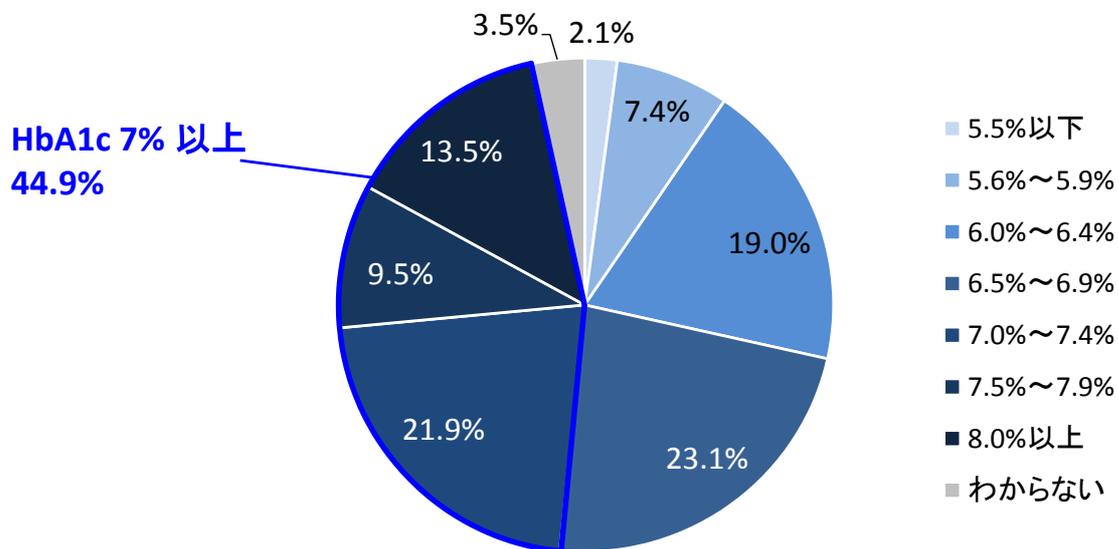


HbA1c値

◆ HbA1c値が7%以上の人が44.9%

Q 最近のあなたのHbA1c(ヘモグロビンA1c)値を教えてください。(単一回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)



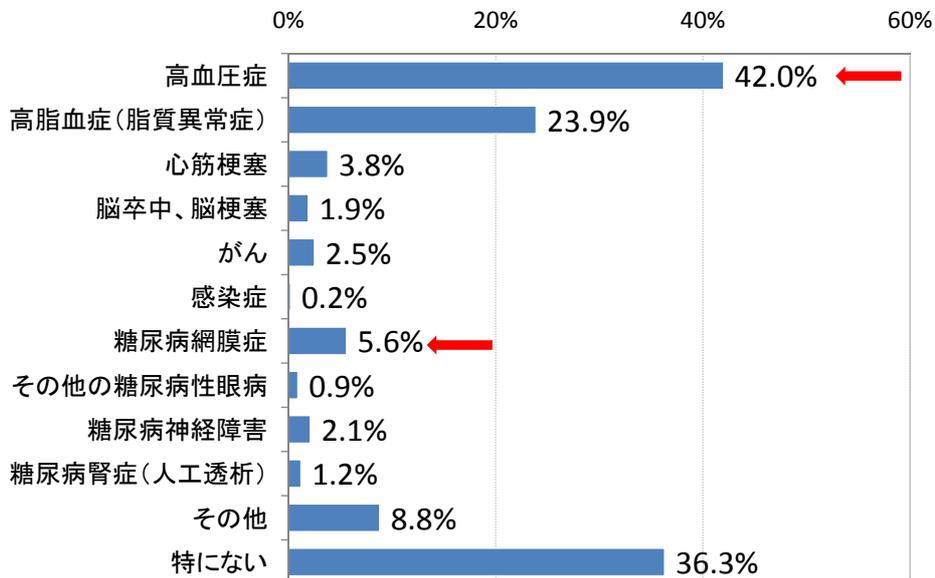
糖尿病以外の疾病罹患状況

◆ 糖尿病と同時に「高血圧症」にかかっている人が42.0%

◆ 「糖尿病網膜症」にかかっている人が5.6%

Q 糖尿病以外で、次のうちあなたが現在治療中の病気はありますか。(複数回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)



3

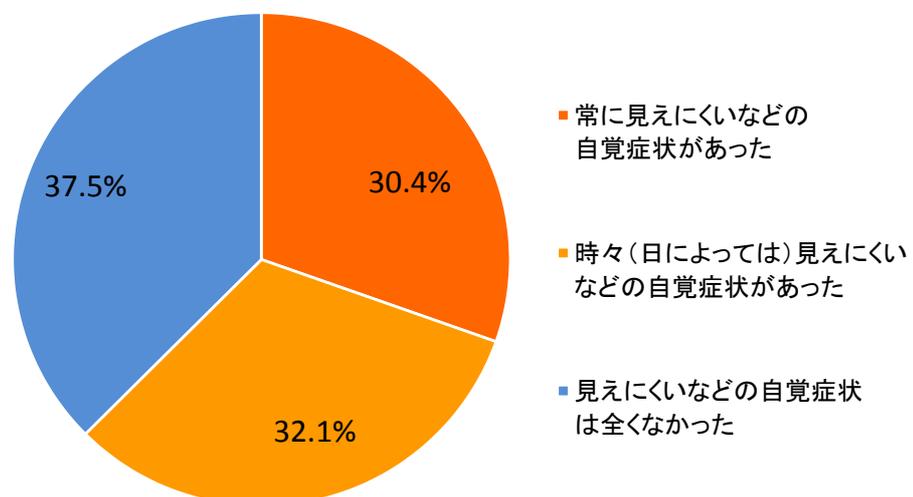
糖尿病網膜症診断時の自覚症状

◆ 糖尿病網膜症と診断された時点で明確な自覚があった人は30.4%

◆ 自覚症状が全くなかった人は37.5%

Q 網膜症と診断された時の自覚について、1つだけ選んでください。(単一回答)

【糖尿病網膜症罹患患者ベース】 (n=56)



4

網膜症検診のための眼科受診経験とその時期

◆ 糖尿病の診断を受けたにもかかわらず、これまでに眼科を受診していない、もしくは1年以上たってから受診した人が合わせて60.9%と半数以上を占める

Q あなたは糖尿病と診断されてから、糖尿病網膜症などの眼の合併症の有無を調べるために眼科を受診しましたか。
(単一回答)

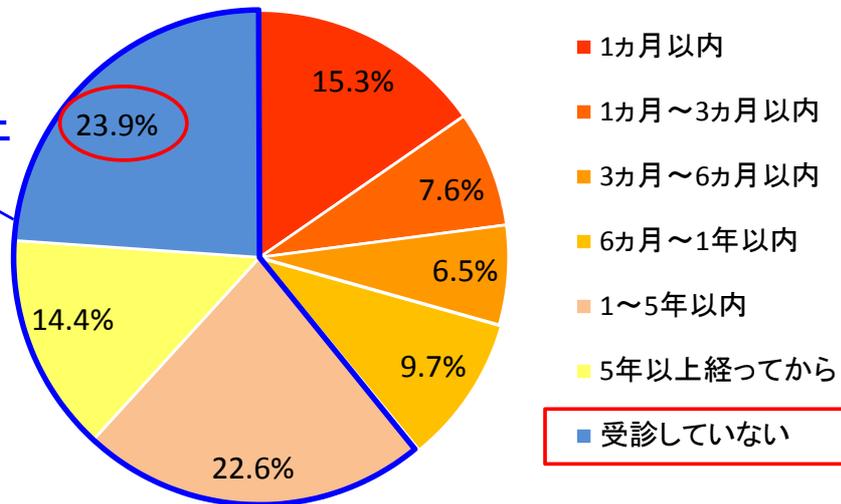
+

Q 初めて眼科を受診したのは、糖尿病と診断されてからどのくらい経ってからですか。(単一回答)

【全回答者ベース】

(n=1,000)

眼科未受診もしくは
糖尿病の診断から1年以上
たってから受診:60.9%

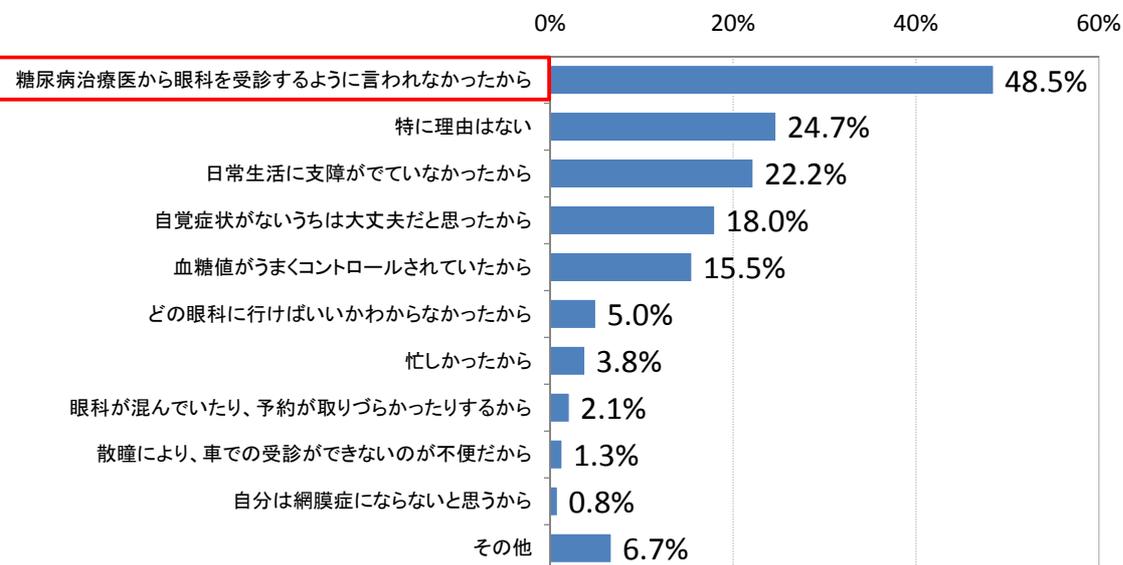


眼科未受診理由

◆ 糖尿病の診断を受けたにもかかわらず眼科を受診していない(23.9%)理由の1位は「医師から眼科を受診するように言われなかったから」で約半数

Q 眼科を受診していないのはなぜですか。(複数回答)

【眼科未受診者ベース】 (n=239, 23.9%)



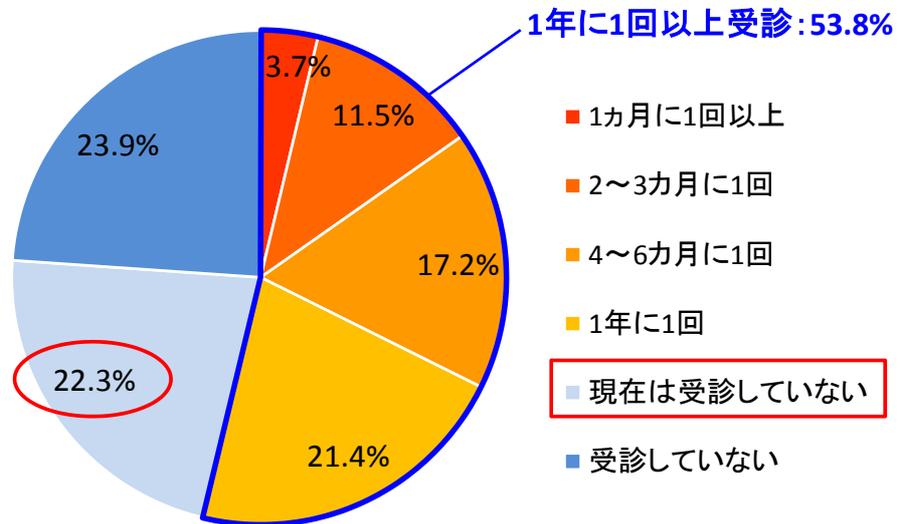
その後の眼科受診頻度

◆ 網膜症検診のために年1回以上眼科を受診している人は53.8%にとどまり、22.3%は受診を中断してしまっている

Q あなたは糖尿病と診断されてから、糖尿病網膜症などの眼の合併症の有無を調べるために眼科を受診しましたか。
(単一回答)

+
Q 最近は、どのくらいの頻度で眼科を受診していますか。(単一回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)



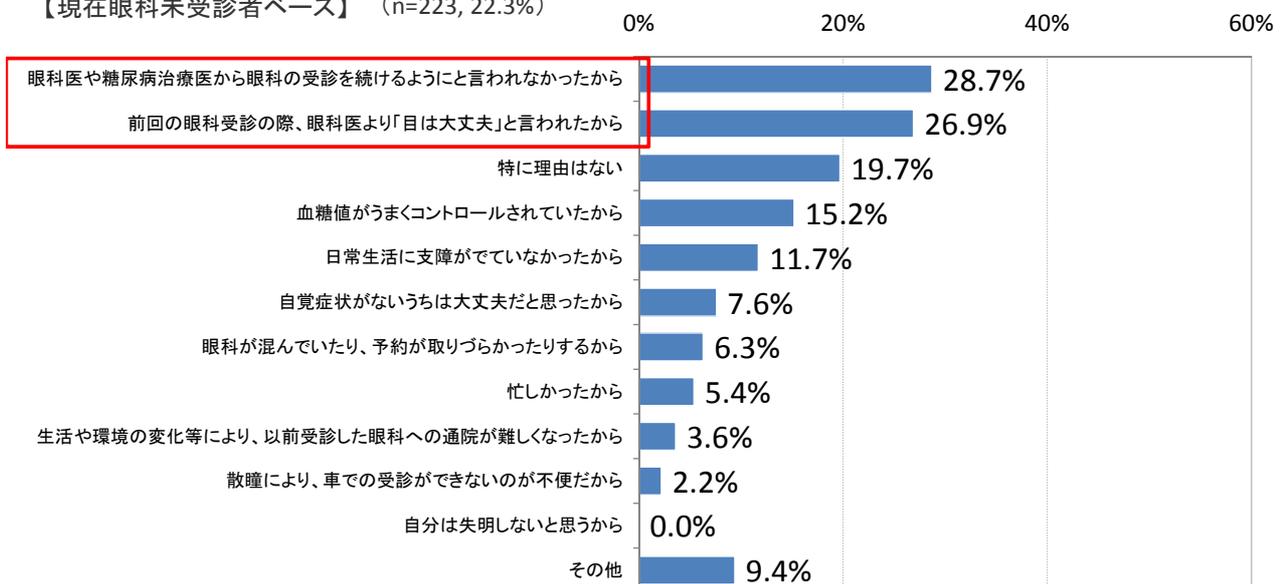
7

眼科受診中断理由

◆ 眼科受診を中断している理由は、「医師から眼科の受診を続けるようにと言われなかったから」が28.7%、「眼科医より『目は大丈夫』と言われたから」が26.9%

Q 「現在は受診していない」と回答した方(眼科受診を中断した方)にお伺いします。現在、眼科を受診していないのはなぜですか。(複数回答)

【現在眼科未受診者ベース】 (n=223, 22.3%)



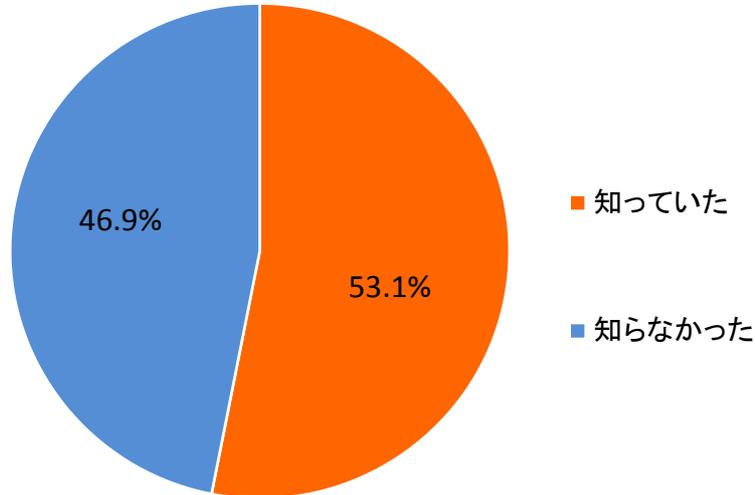
8

眼科受診の必要性の認識

◆ 糖尿病と診断されたら、年1回以上の眼科受診が必要ということを知らなかった人が46.9%と半数近く

Q 糖尿病と診断されたら、たとえ血糖コントロールが良好で視力に問題がなくても、少なくとも年1回の眼科受診が必要であることを、以前からご存知でしたか。(単一回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)

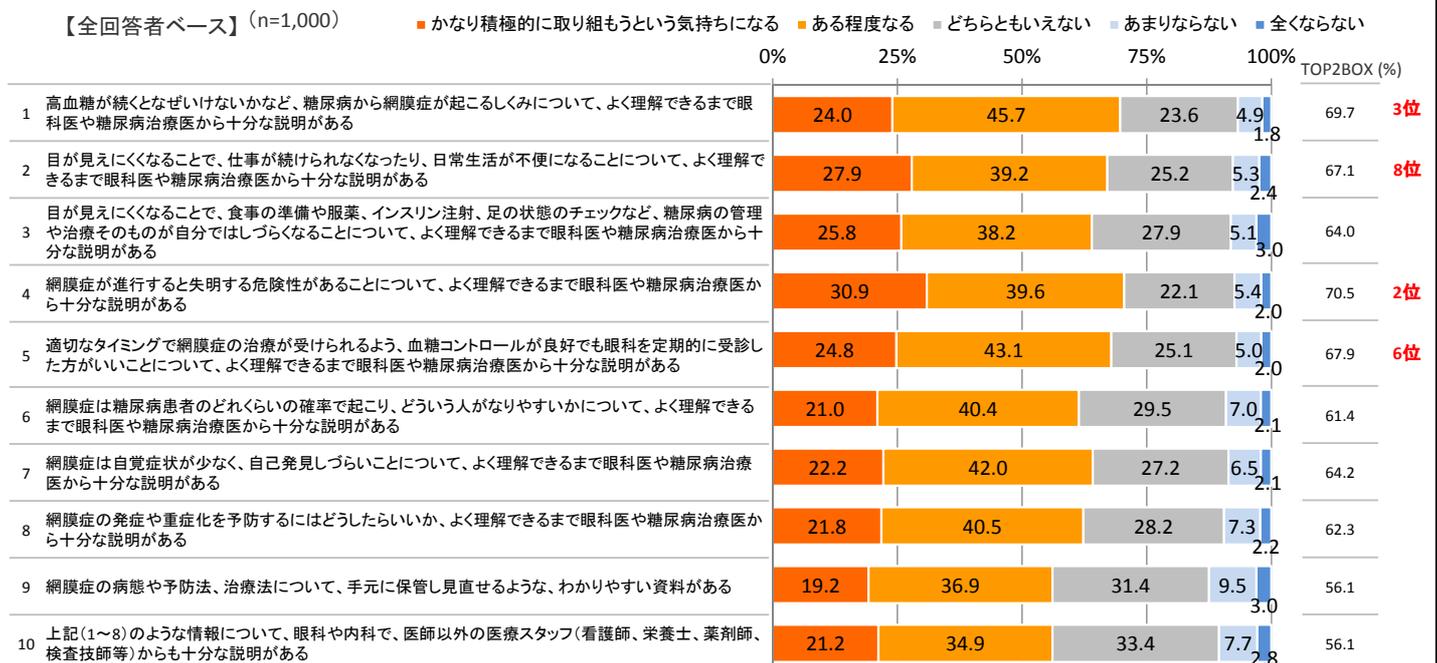


糖尿病患者が網膜症の発症・重症化の予防に取り組む動機づけとなる医師からの働きかけ—疾患や治療意義への理解を促す情報提供

◆ 深刻さを含む網膜症理解につながる情報提供や、眼科受診の意義についての情報提供が効果的な可能性

Q 次のような「働きかけ」があれば、あなたは糖尿病網膜症の発症・重症化の予防に積極的に取り組もうという気持ちになりますか。(単一回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)



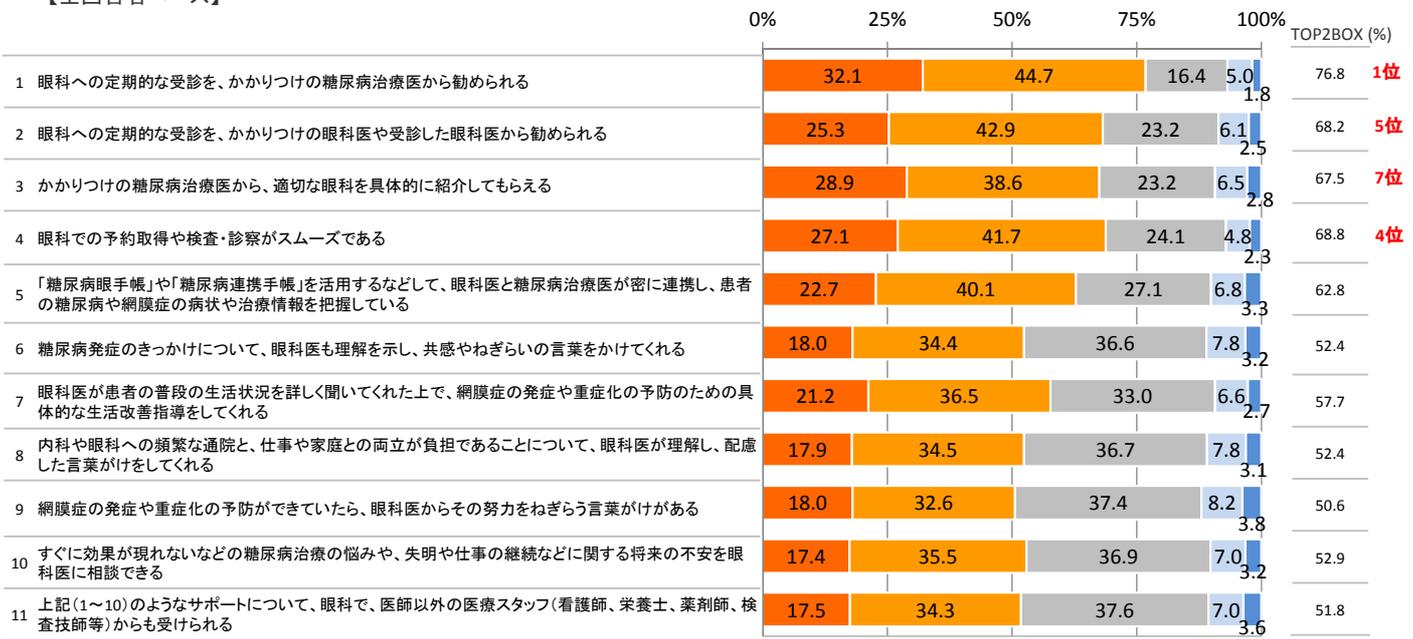
糖尿病患者が網膜症の発症・重症化の予防に取り組む動機づけとなる医師からの働きかけ — 具体的行動支援や心理的サポート

◆ 眼科医と糖尿病治療医の連携をベースとした、スムーズな眼科受診に向けた行動支援も求められる

Q 次のような「働きかけ」があれば、あなたは糖尿病網膜症の発症・重症化の予防に積極的に取り組もうという気持ちになりますか。(単一回答)

【全回答者ベース】 (n=1,000)

■ かなり積極的に取り組もうという気持ちになる ■ ある程度なる ■ どちらともいえない ■ あまりならない ■ 全くならない



糖尿病患者が網膜症の発症・重症化の予防に取り組む動機づけとなる働きかけ(自由回答より)

- ◆ 十分な情報提供・啓発と、さらに踏み込んだ検診体制・診療連携が今後の課題として浮き彫りに
- ◆ 他にも、相談窓口や医師からの配慮、医師以外の医療スタッフによるサポートを求める声も

Q その他、あなたが糖尿病網膜症の発症や重症化の予防に取り組むためにあったらいいと思うこと、医療関係者や周囲に求めることがあれば、誰に何を求めるか教えてください (求めることを共通のキーワードで抜粋)

情報提供・啓発

- ・ 医師によるわかりやすい言葉での説明、現状の定量的説明
- ・ 症状や体験談などがわかる映像
- ・ 待合室で読めるパンフレットや啓発ポスター
- ・ メディアを通じた啓発、市民向け講座

検診体制・診療連携

- ・ 公的眼科無料検診、健康診断への眼科検査項目の組み込み
- ・ 検査・受診の簡便化(内科でできる簡易眼科検査など)
- ・ 内科・眼科の物理的距離の短縮や、両科を同時に受診できる総合施設
- ・ 眼科・内科の受診が必須となる仕組みづくり

相談・心理的サポート・配慮

- ・ 医師からのやさしい言葉がけやねぎらい、苦勞への理解
- ・ 相談コーナーなど気軽に相談できる体制

医療スタッフ

- ・ 薬剤師からのアドバイス
- ・ 栄養士による栄養指導
- ・ 生活習慣を相談できるカウンセラー